



鏡石町長 遠藤 栄作

「復興と進化の融合」をめざして

平成24年の新春を迎え、今年は、町民の皆様にとって幸多き年でありますように、衷心より願うものであります。

震災から10ヶ月が経過しようとしておりますが、応急から復旧へ、本格的な復旧の途についた土木災害工事や農地災害工事、公共施設等の改修工事、そして継続した被災者支援事業など、町としましては、これまで全力で取り組んで参りました。応急から復旧へ、そして復興・再生は、昨年そして今年も、最大で最優先の課題となっております。

私も町長に就任してから一年半が経過しましたが、「進化する鏡石町」の町づくりに向かって歩みだした平成23年度、進化するプロジェクト事業や各種イベントの一部を、震災のため残念ながら休止せざるをえませんでした。町の財政運営も厳しい状況下であり、震災対策関連予算が大きな比重を占めることからの苦しい判断でありました。

震災復旧事業は最優先課題であります。都市基盤の整備、教育・福祉の充実、産業の振興などの施策の中には立ち止まることのできない事務事業も多くあります。今後も引き続き行財政改革に取り組み、健全財政運営を基本とする中で、優先順位をつけながら効果的な事業の遂行により、町民の皆様の期待にこたえていく所存であります。

一方、現在策定を進めている第5次総合計画(平成24年から向こう10年間のまちづくりの基本計画)では、震災からの復興計画も包含すべく考えておりますが、復興と進化をいかに融合させていくかの焦点については、震災で改めて感じた人と人とのつながりや支え合う絆の大切さを復興計画の柱にしたいと考えております。

さらに本年は、昭和37年に鏡石村から鏡石町に町制を施行して50年の節目の年でもあります。半世紀という歴史を振り返り、将来の鏡石町を展望し、誓いを共有する年でもあります。町民の皆様と共に復興と記念を紡ぐ形での事業を展開したいと考えております。

復興と進化をいかに融合させていくか、これからも町民にとってもうあるべきか、どのように改善すべきかを検討し、実行に移して参りますので、本年も格段のお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



鏡石町議会議長

渡辺 定己

町民と一体となって震災を乗り越える

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆様には、震災からの復旧途上にあっても、力強くご健勝にて新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

また、平素から議会活動に、多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、私達にとつての平成23年3月は未だ終わっておらず、皆各人におかれましては例年であれば、今年こそはと気分を新たに、心機一転、頑張ろうとお考えの方も多いかと存じますが、今年のお正月は複雑な心境の中、お迎えになられた方も多いのではないでしょうか。千年に一度と言われる東日本大震災は、私たちの心の中にそれほど大きな衝撃を与えたものと感じております。

しかし、被災を嘆いてばかりいても、未来は開けて参りません。年が改まった今、町民一丸となつてこの未曾有の大震災からの復旧と復興に立ち上がりたくと存じます。

町議会としても、昨年度上半期は震災の応急対応、9月には特例延長期間を終えての町議会議員一般選挙が行われ、6名の新人議員を含む12名の議員が当選いたしました。選挙期間を通して強く感じられましたのは、やはり安心安全のまちづくりと放射能問題対応であります。

これらの課題につきましては、「出来るものから、とにかく早く」処理することが肝要であり、そのための町執行に対する提言や、関係機関への要望として、町民皆様方の生の声をお届けすべく全力で活動して参りましたが、まだまだ十分とは言えず、今後により一層努力を惜しまない覚悟であります。

本年は議会自体もより活性化させたいと考えており、そのための事業プランも用意したいと考えております。いずれにしましても、町民の皆様が一日も早く復旧復興を実感され、震災以前よりも充実した生活が送れるようになった時が真の「新年・お正月」を迎える時ではないでしょうか。簡単でないことは明らかですが、何としても町民の皆様と一体となつて震災を乗り越えたいと考えております。

新生議会として鋭意努力してまいりますので、今年もより一層のご支援を、よろしくお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。